

# Economic Indicators

発表日: 2022年5月13日(金)

## 主要経済指標予定(2022年5月16日~5月20日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部  
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(5月16日~5月20日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
5月16日 (月)	8:50 4月企業物価指数 (前月比) (前年比)	+0.4% +9.0%	+0.7% +9.4%	+0.4%~+1.0% +9.0%~+9.8%	+0.8% +9.5%
5月17日 (火)	13:30 3月第3次産業活動指数 (前月比) (前年比)	+0.8% ▲0.8%	+1.1% —	▲0.2%~+1.6% —	▲1.3% +0.7%
	13:30 3月商業動態統計・確報 小売業販売額 (前年比)	—	—	—	+0.9%
5月18日 (水)	8:00 5月ロイター短観 製造業DI 非製造業DI	— —	— —	— —	11 8
	8:50 1-3月期GDP1次速報 実質GDP成長率(前期比) (同年率) 名目GDP成長率(前期比) GDPデフレーター(前年比)	▲0.4% ▲1.5% ▲0.3% ▲0.9%	▲0.4% ▲1.8% ▲0.3% ▲1.1%	▲1.6%~▲0.1% ▲2.8%~▲0.2% ▲2.7%~+1.3% ▲2.6%~▲0.1%	+1.1% +4.6% +0.3% ▲1.3%
	13:30 3月鉱工業指数・確報 鉱工業生産指数(前月比) (前年比) 稼働率指数(前月比) 生産能力指数(前年比)	— — — —	— — — —	— — — —	+0.3% ▲1.7% +1.5% ▲1.4%
5月19日 (木)	8:50 3月機械受注統計 船電除く民需(前月比) (前年比)	+4.5% +3.3%	+3.9% +3.3%	▲0.5%~+6.6% 0.0%~+7.7%	▲9.8% +4.3%
	8:50 4月貿易統計 輸出金額(前年比) 輸入金額(前年比) 貿易収支(原数値、億円)	+12.2% +32.0% ▲11,224	+13.9% +35.0% ▲11,760	+7.2%~+17.3% +25.8%~+37.6% ▲15,400~▲8,682	+14.7% +31.2% ▲4,141
5月20日 (金)	8:30 4月消費者物価指数(全国) 全国コア(前年比) 全国総合(前年比)	+2.1% +2.5%	+2.0% +2.5%	+1.0%~+2.2% +1.4%~+2.6%	+0.8% +1.2%
	14:00 4月コンビニエンスストア統計 既存店ベース売上高(前年比)	—	—	—	+1.2%



**1-3月期GDP1次速報・実質GDP成長率** 当社予想：前期比年率▲1.5% 中央値：同▲1.8%

前期比年率▲1.5%と、21年10-12月期の高成長から一転してマイナス成長に転じると予想。感染拡大による行動慎重化で個人消費が落ち込んだことに加え、ワクチン購入の影響もあって輸入が大幅に増加したことも成長率を押し下げたとみられる。日本経済は2021年に入ってから、感染の拡大と抑制に対応する形で四半期ごとに前期比でプラスとマイナスを繰り返している。均してみれば極めて緩やかな回復にとどまっており、経済活動の正常化には未だ距離がある状況である。

(シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴)

**4月企業物価指数・国内企業物価** 当社予想：前年比+9.0% 中央値：同+9.4%

4月の国内企業物価を前年比+9.0%、前月比+0.4%と予想する。前月比の伸びは縮小する見込みで、4月に薬価引き下げが実施された化学製品等がマイナス寄与する見込み。もともと、前年比では、原油高を背景に石油・石炭製品、電気・ガス・水道の押し上げが続き、+9%の高い上昇が続くだろう。(副主任エコノミスト：大柴 千智)

**3月第3次産業活動指数** 当社予想：前月比+0.8% 中央値：同+1.1%

3月の第3次産業活動指数は、前月比+1.0%の上昇を予想する。3月下旬にはまん延防止等重点措置が解除されたこともあり人流が回復したことで、宿泊業や飲食業といった生活関連娯楽サービスを中心に改善を見込む。4月についても人流の回復が継続し、対面型サービス業を中心に緩やかな回復が続くだろう(副主任エコノミスト：大柴 千智)

**3月機械受注・船舶電力除く民需** 当社予想：前月比+4.5% 中央値：同+3.9%

3月の機械受注(船舶電力除く民需)は、前月比+4.5%を予想する。感染状況の改善やそれに伴うまん延防止等重点措置の全面解除等を受けて、3ヶ月ぶりの増加となることが見込まれる。もともと、エネルギーや原材料価格の高騰に加え、ロシア・ウクライナ情勢など、企業を取り巻く不透明感が高まる中で、反発は限定的なものに止まるだろう。先行きについては、経済活動が正常化する中で増加傾向での推移を見込むが、コスト高の継続やロシア・ウクライナ情勢、中国におけるロックダウンなど、設備投資意欲の抑制要因により、回復ペースは緩やかなものに止まるだろう。

(主任エコノミスト：小池 理人)

**4月貿易統計・貿易収支額(原数値)** 当社予想：▲11,224億円 中央値：▲11,760億円

4月の貿易収支を、▲15,632億の赤字(季節調整値)と予想する。供給制約の影響や感染拡大が続く中国経済の停滞により輸出が伸び悩む一方で、ウクライナ危機により原油価格が一段と上昇したことを反映し、輸入価格の高い伸びが継続したことで、貿易収支は赤字幅を拡大させたと予想する。

(副主任エコノミスト：大柴 千智)

**4月全国消費者物価指数(生鮮食品除く総合)** 当社予想：前年比+2.1% 中央値：同+2.0%

CPIコアは前年比+2.1%と、3月の+0.8%から一気に伸びを高め、+2%を上回るだろう。携帯電話通信料のマイナス寄与の大部分が剥落することの影響が大きいほか、食料品の値上げが続いていることも押し上げ要因になる。CPIは当面高どまりを続ける可能性が高く、22年内は+2%程度で推移する可能性がある。

(シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴)

図表1

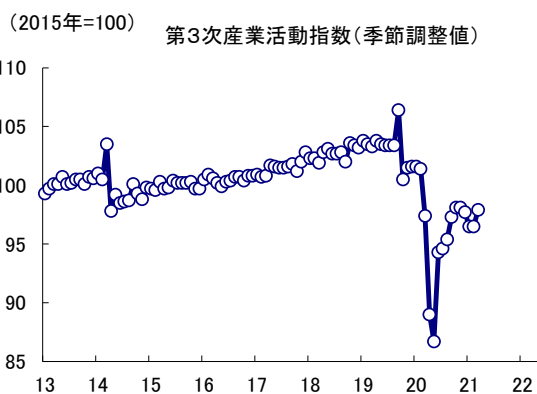
## 2022年1-3月期GDP予測

(%)	
実質GDP	▲ 0.4
(前期比年率)	▲ 1.5
内需寄与度	▲ 0.1
(うち民需)	0.0
(うち公需)	▲ 0.1
外需寄与度	▲ 0.3
民間最終消費支出	▲ 0.3
民間住宅	▲ 2.3
民間企業設備	0.9
民間在庫変動(寄与度)	0.1
政府最終消費支出	0.4
公的固定資本形成	▲ 3.5
財貨・サービスの輸出	1.5
財貨・サービスの輸入	3.4

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

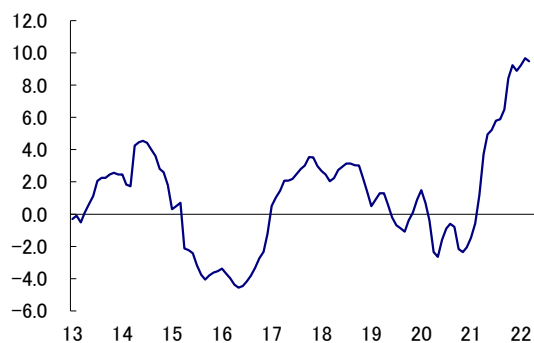
図表3



(出所)経済産業省「第3次産業活動指数」

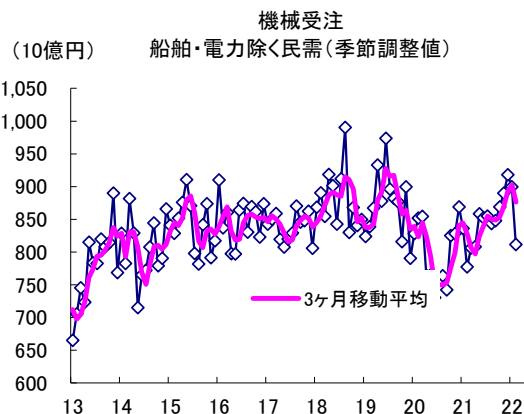
図表2

## (%) 国内企業物価指数(前年比)



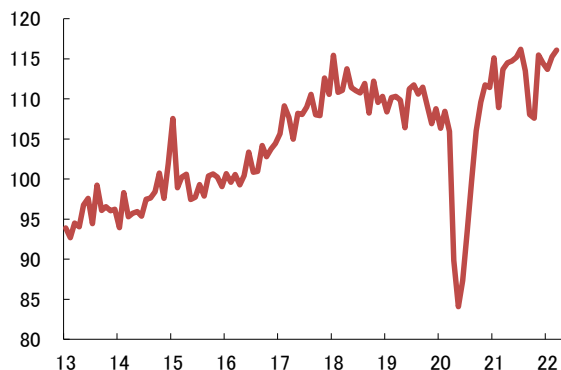
(出所)日本銀行「企業物価指数」

図表4



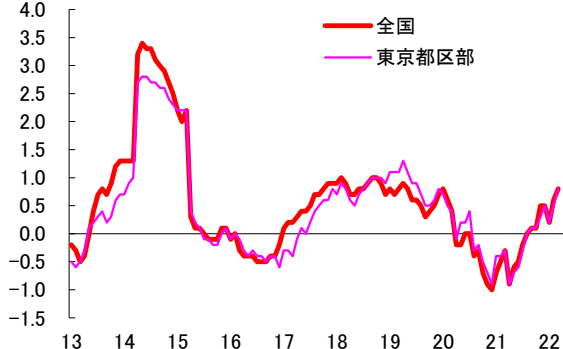
(出所)内閣府「機械受注統計」

図表5

実質輸出  
(2015年=100) (季節調整値、日本銀行作成)

(出所)日本銀行「実質輸出入」

図表6

(%) 消費者物価指数  
(生鮮食品除く総合、前年比)

(出所)総務省「消費者物価指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

